

「平成23年(2011年) 東日本大震災」に伴う災害意識調査

報告書 - TOTAL編 -

- 1 防災意識<普段から準備していること>
- 2 地震当日の行動 1 <外出先からの帰宅>
- 3 地震当日の行動 2 <帰宅までの行程と時間>
- 4 地震当日の行動 3 <情報入手経路>
- 5 現在の状況 (震災後)

平成23年4月

調査実施明細

調査地域: 首都30km圏

調査対象者: 弊社保有のインターネット調査パネル
(パネル設定方法はポスティングによるリクルート)
20歳以上69歳以下の一般男女

標本抽出方法: パネルリストからの系統抽出

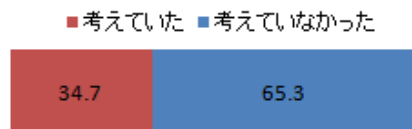
配信数: $n=4,910$

回収数: $n=1,034$ (有効回答数: $n=983$)

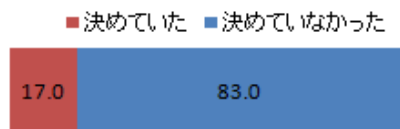
調査期間: 4月1日18時～4月5日10時

防災意識< 普段から準備していること>

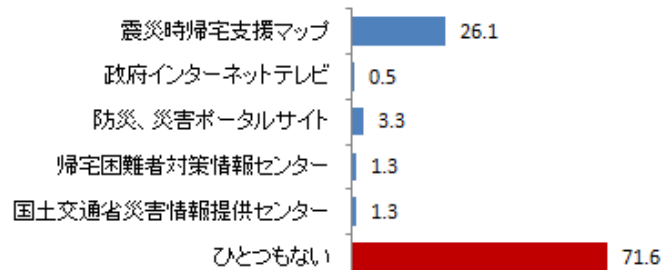
本震災以前、災害時の帰宅方法を考えていたか



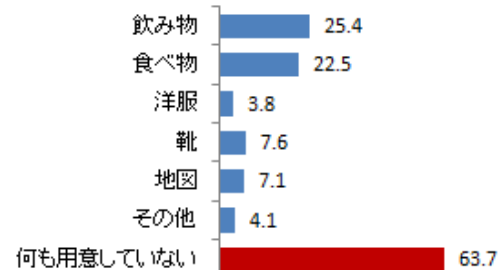
本震災以前、家族との連絡方法を決めていたか



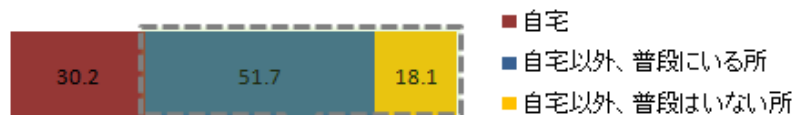
災害関連情報で本震災以前に接触した(見た)ことがあるもの



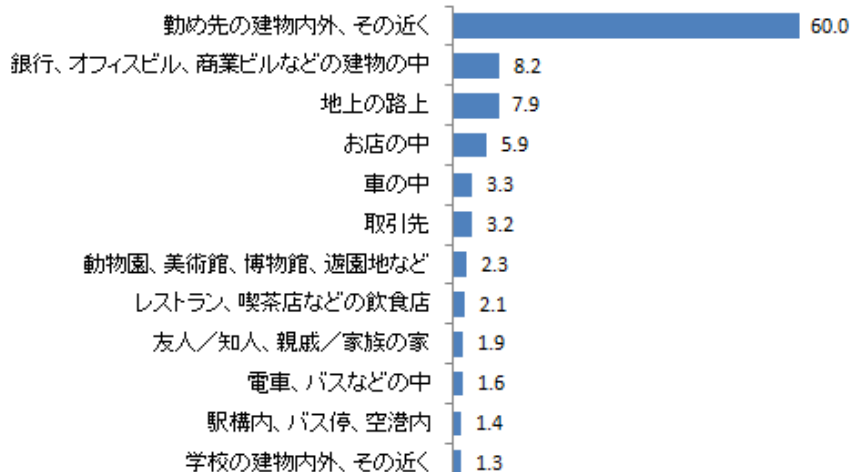
災害時帰宅に備え、勤務先/学校に用意しているもの



地震当日の行動1 < 外出先からの帰宅>



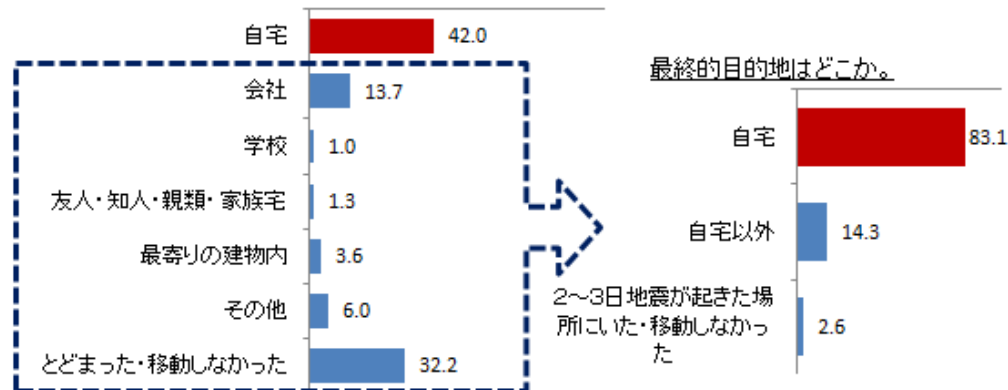
地震で揺れ始めたその時の居場所



地震発生直後一時避難をしたか

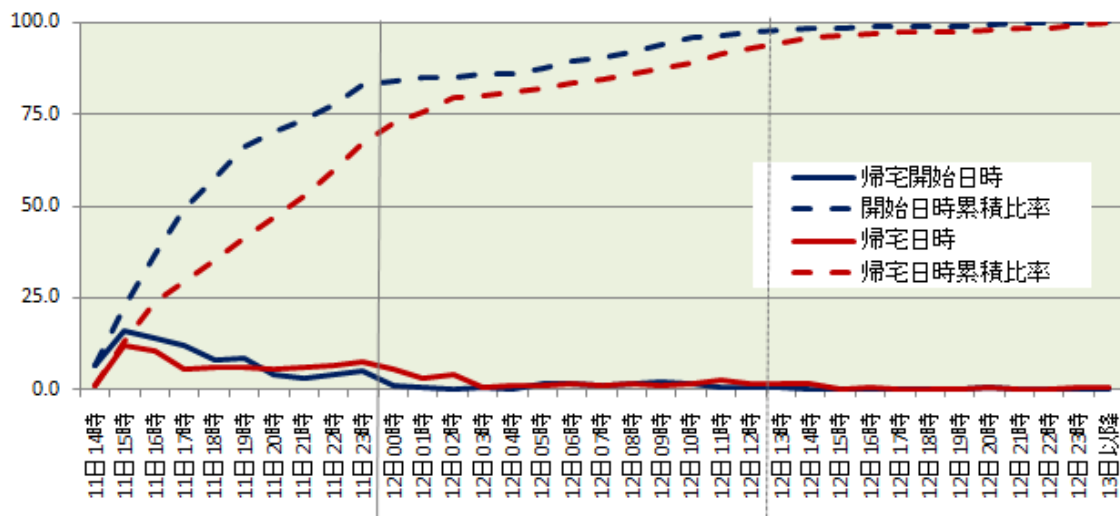


地震に遭った場所からどこに移動したか(一時避難の有無にかかわらず)

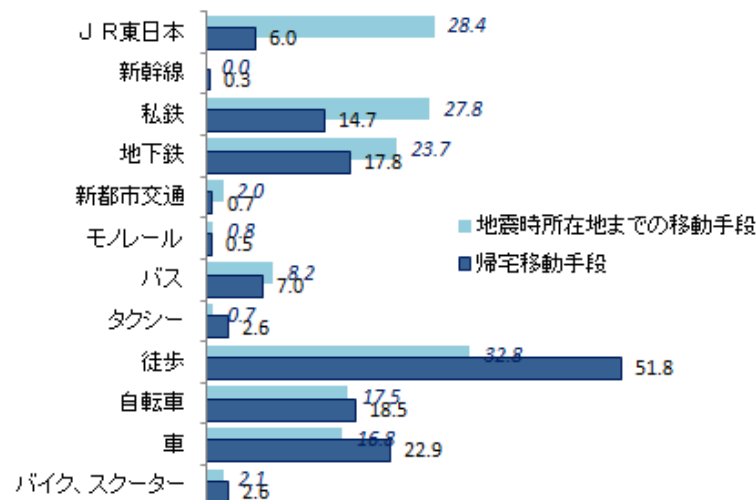


地震当日の行動②<帰宅までの行程と時間>

帰宅日時



その場所から帰宅までの間利用した交通会社、移動手段



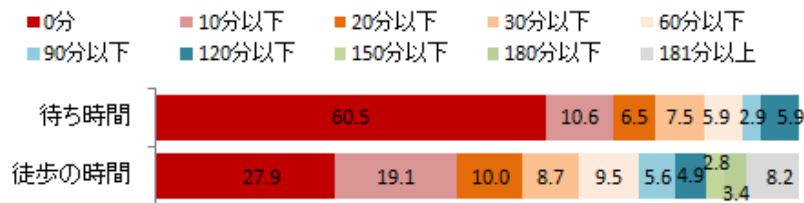
帰宅所要時間(分)



普段の通勤通学時間

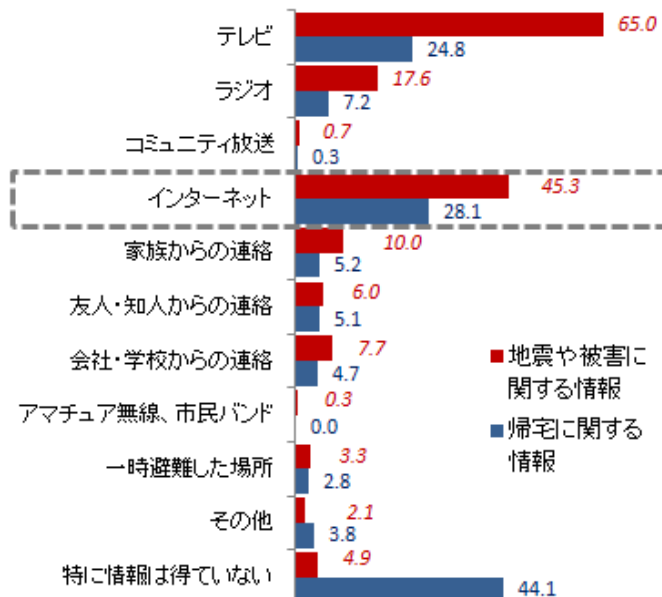


帰宅までの間の徒歩時間と待ち時間(駅/交通機関を待っていた構内や周辺/バス停など)



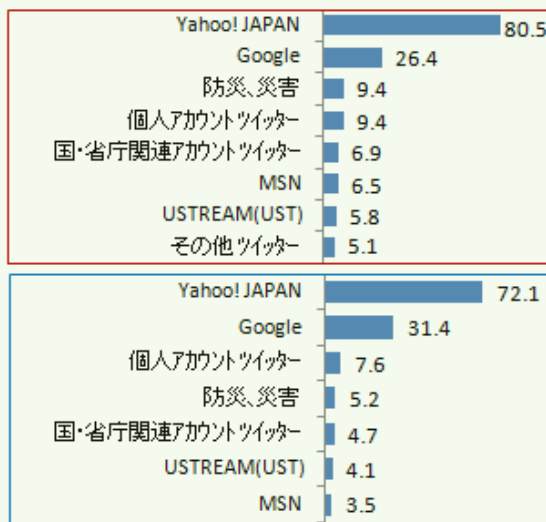
地震当日の行動3<情報入手経路>

地震発生直後、帰宅に関する情報、
地震や被害に関する情報は何かから得たか

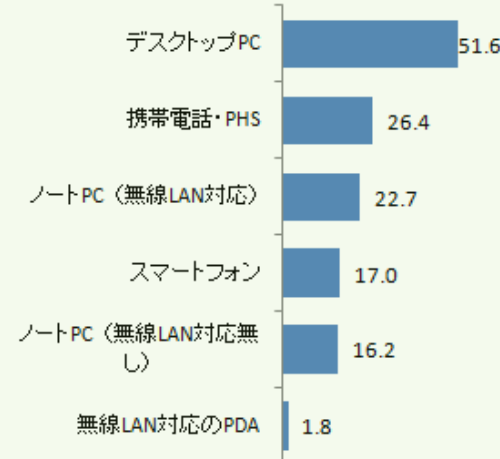


■ 地震や被害に関する情報
■ 帰宅に関する情報

アクセスサイト

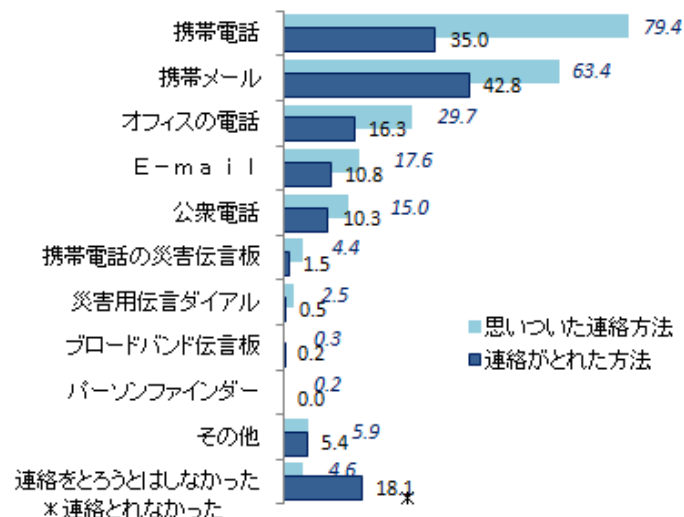
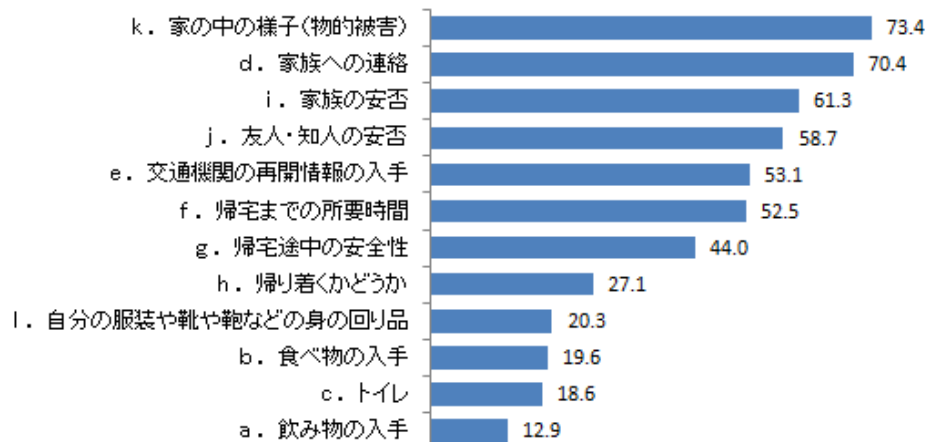


アクセス機器



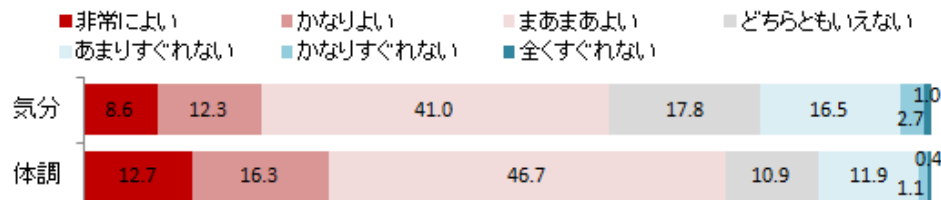
自宅に着くまでの間に、「思いついた連絡方法」と「連絡がとれた方法」

帰宅途中不便や不安を感じた事象



現在の状況（震災後）

現在の体調や気分

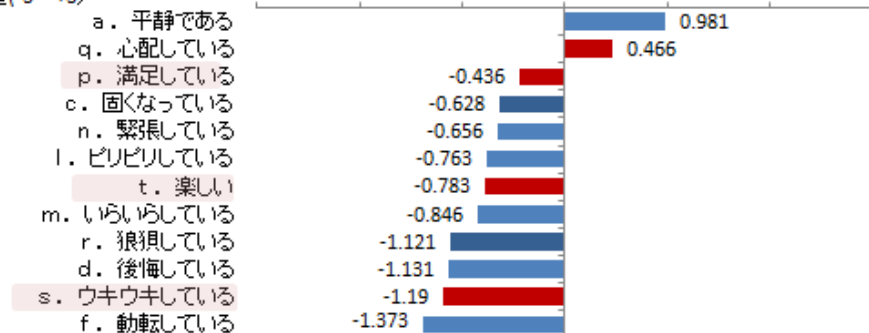


東日本大震災前の状況と比べた生活の不便さ回復程度

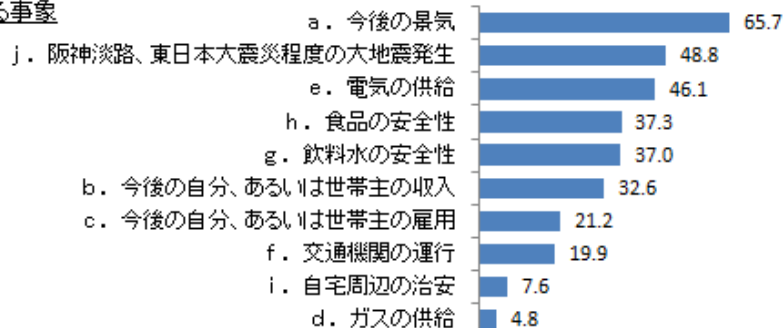


現在のあなたのお気持ち

平均値(-3~+3)

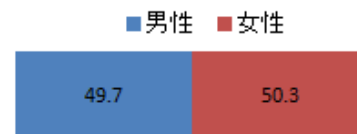


不安に感じている事象

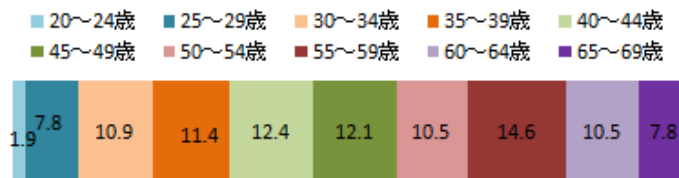


回答者のデモグラフィック特性

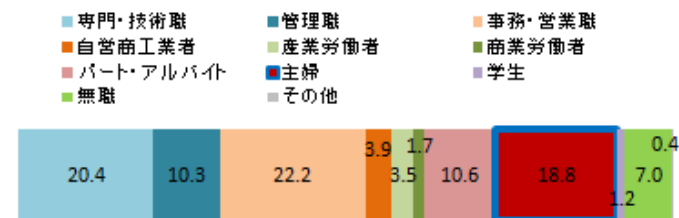
性別



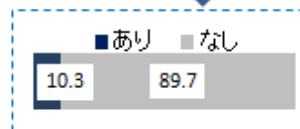
年齢



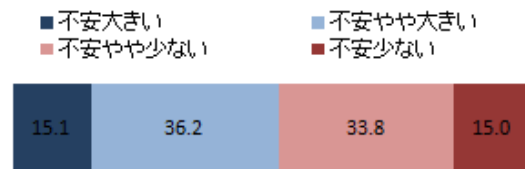
職業



アルバイト・パート



不安尺度



防災意識<普段から準備していること>

- あらかじめ帰宅方法を考えていた人は35%、家族との連絡方法を決めていた人は17%である。
- 災害関連情報に事前接触していた人は28%で、そのなかでは「震災時帰宅支援マップを見た」が最も多い。また、勤務先や学校での災害へは36%の人が準備しており、準備内容では「飲料」「食べ物」が20%を超える。
- ◎防災対応者は、総じて30%程度と考えられる。

地震当日の行動 1 <外出先からの帰宅>

- 東日本大震災当日(2011年3月11日)の地震遭遇場所は70%が外出先であり、うち「普段の行き先」が52%、「普段以外の行き先」が18%である。概ね、勤め先の建物内外、その近くで地震に遭遇している。
- 遭遇場所からは、「自宅にむかう」「一時とどまる」の人が多く、最終的には90%が自宅に戻っている。大半は「一時避難」をしていない。
- ◎外出先で地震遭遇の場合、概ね勤め先やその近くで遭遇している。その場でとどまる(様子を見る)ケースもあるが、最終的には自宅に向かっている。

地震当日の行動 2 <帰宅までの行程と時間>

- <帰宅開始日時>は、当日11日15時~16時がピークであり、11日17時では50%が帰宅開始している。また、<帰宅日時>も当日11日15時~16時がピークであり、11日21時には53%が帰宅、11日当日中には73%が帰宅している。帰宅までの所要時間は「30分以下」が28%、1時間半以内が50%である。一方、「5時間以上」の長時間所要者も13%みられる。
- *職業別で所要時間をみると、専門技術職、管理職、産業労働職といった「勤め人」では「5時間以上」も20%前後みられる。
- <地震時の帰宅移動手段>は、「徒歩」が52%で最も多く、以下「車」「自転車」「地下鉄」「私鉄」が続く。これを<通常移動手段>と比べると、「徒歩」が急増、「車」「自転車」も微増している。一方、「JR東日本」利用者は著しく減少、「地下鉄」「私鉄」も減少している。徒歩時間、待ち時間は少ない傾向にあるが、一方で長時間の徒歩や待ちも若干みられる。
- ◎地震発生から1-2時間という早い段階で半数が帰宅行動に入っており、翌日の午前0時にはほぼ75%が帰宅している。所要時間は1時間半以内が半数、徒歩が中心だが、車、自転車、また復旧の早かった地下鉄や私鉄の利用もみられる。ただし、<勤め人>では帰宅所要時間が3時間以上の人が30-40%みられる

地震当日の行動 3 <情報入手経路>

- <地震発生時に関する情報>は「テレビ」が65%で最も多く、「インターネット」が45%である。また、<帰宅に関する情報>は44%が「情報を得ていない」とし、情報入手も「インターネット」が28%で「テレビ」25%と並ぶ。アクセスサイトは「Yahoo! JAPAN」が70-80%、「デスクトップPC」でのアクセスが最も多い。
- <連絡がとれた方法>は、「携帯メール」が43%で最も多く、「携帯電話」は35%である。<思いついた方法>と比較すると、どの方法も両者にギャップがあるが、特に「携帯電話」でのギャップが大きい。低率ではあるが、「公衆電話」でのギャップは少ない。
- 帰宅途中に感じた不安や不便さは、「家の中の様子(物的被害)」「家族への連絡」が上位にみられ、以下「家族の安否」「友人知人の安否」「交通機関再開」「帰宅までの所要時間」が続く。概ね、家内の物的被害、近親者等の安否、帰宅不安の順番となる。
- ◎情報収集の中心は「テレビ」、「インターネット(Yahoo! JAPAN)」であるが、帰宅時には情報隔離の状態になりやすい。帰宅不安はあるものの、家内の物的被害、近親者等の安否に比べると最重要課題ではなかったことがうかがえる。「携帯電話」より「携帯メール」の有用性が高く、「Email」や「公衆電話」の確実性も高い。

現在の状況(震災後)

- 現在の状況では、<気分>「非常に~まあまあよい」は62%、<体調>「非常に~まあまあよい」は76%である。気分としては、「平静である」とともに「心配」が上位にみられる。また、「楽しい」「ウキウキ」に否定的反応がみられる。生活の回復感「10割」が7%にとどまり、概ね未回復と感じている。
- 現在普段不安に感じている事象は、「今後の景気」が66%で最も多く、以下「阪神淡路・東日本程度の大地震発生」「電気の供給」「食品の安全」「飲料水の安全」が続く。
- ◎現在は、落ち着きは取り戻しているものの、不安感があり楽しい気分はみられない。特に、大地震や電力不足への憂慮だけでなく、景気は依然として重要視されている。